

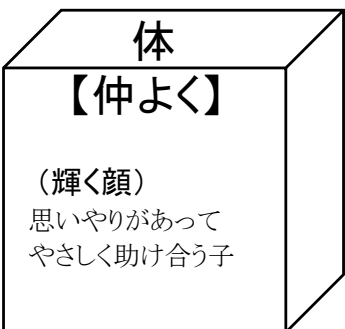
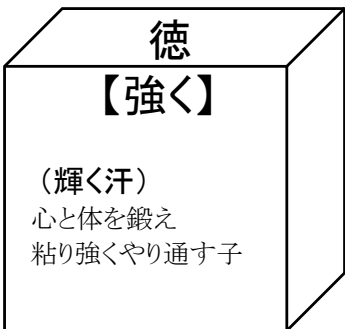
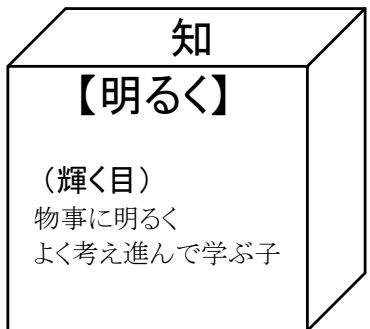
平成29年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

1 赤穂小学校の教育

(1) 教育目標

よく学び、よく遊ぶ ～夢を大きく 膨らませる子～

(2) 校 訓



(3) 本年度の学校経営方針

<重点>

- 発達や学習の課題を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図るとともに、指導と評価の一体化を進め、確かな学力を身につける。
- 子ども一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、学校行事等の集団活動を通して、望ましい人間関係の形成、実践的態 度の育成を図る。

- (1) 基礎・基本の確実な定着を図り、個性や創造性を伸ばす教育を推進する。
- (2) 夢や目標の実現に向かって進んでいくキャリアプランニング能力の育成をめざす。
- (3) 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
- (4) 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
- (5) 道徳教育・体験活動を充実し、「豊かな心」を育む。
- (6) 震災に学び、共生の心を育み、自らの命を守るために主体的に行動する力を育む。
- (7) 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。
- (8) 学校業務改善に取り組み、子どもと向き合う時間を積極的に確保する。

(4) 本年度の学校重点目標

- ①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施
- ②特別支援教育の充実
- ③人権教育の徹底
- ④道徳教育の充実
- ⑤環境教育の推進
- ⑥「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進
- ⑦心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実
- ⑧「兵庫の防災教育」の充実
- ⑨学校園所・家庭・地域との連携
- ⑩福祉教育・ボランティア活動の推進
- ⑪健康教育の充実
- ⑫教職員の専門性と実践的指導力の向上

学校名 赤穂市立赤穂小学校

【総合的な学校関係者評価】

職員アンケートを実施し、各々のアンケート結果から課題を見いだし、迅速に改善を図っていくとしていることを評価したい。

保護者アンケートの回収率が98.4%と高いことから、保護者の学校教育への関心、期待度が高いことが伺われる。その中で、「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」という質問に、「特にあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者が92.9%と昨年度よりも高い数値を示していることは、本年度の学校経営が保護者に指示されている証であり、大変喜ばしく思う。「子どもは、学校での授業が分かると言っている。」という項目も90.5%と昨年度よりも高い数値を示しており、校内研修や教職員の学び合いが機能していることを示している。多くの業務を抱え多忙な日々を送る中でも、学校の本分である授業を大切にしていることが窺い知れてありがたく思う。ただ、「そうでない」と答えた保護者が10%ほどいるという点にも着目し、どの子も授業内容を理解し、学ぶことの楽しさを実感できるように、そして、学校生活の中でもっといきいきと生活できるように、さらに授業や学校生活の改善を図っていただきたい。

また、今後、さらに若手教職員が増えていくと聞く。ベテラン・中堅職員の経験と知恵を、経験の浅い職員に伝授していくことで、学校の組織力を高め、さらによりよい赤穂小学校となるよう努力を重ねていただきたい。

「子どものテレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家で決めている。」という項目が、保護者アンケートで唯一、昨年度よりポイントが下がっている点が気になった。最近、街へ出て行けば子どもより大人がスマートフォンやタブレットなどでゲームに熱中している場面をよく目にする。「赤小メディア宣言」は、PTAと連携して取組をされていると聞いたが、アンケートの結果からあまり効果的ではないことがはっきりした。子どもたちのメディアに対する接し方は、保護者の対応によるところが大きい。子どもたち自身に「情報を適切に活用していこう」とする気持ちをもたせることが、学校として重要では無いかと考える。そのため、メディアリテラシーについて指導していく場面を増やしたり、「赤小なかよし宣言」のように、児童会活動が主体となって「赤小メディア宣言」を進めていったりした方がよいのではないかと思う。

それから、職員アンケートで一番ポイントが低かった項目「発達段階に応じた性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実に努めているか。」についてであるが、保健の学習を主とするだけでなく、体や環境への影響、断り方など、低学年から数多く繰り返し指導しておいた方が、知識と意識が高まり、より効果的な予防につながるのではないかと思う。指導の改善を図り、次年度から積極的に取り組んで欲しい。

最後に、このような学校評価は、学期・年度の目標や課題が明確になるとともに、学校改善と教育活動の活性化につながっていく。自校の取組を真摯に見つめ、今後もよりよい学校づくりに尽力していただきたい。

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、アクティブラーニングの推進による授業改善に努めているか	教職員アンケート【3.45】	B	今年度、これまで学年部で行っていた授業研究を、より効果的な指導が行えるよう、「算数科」「社会科生活科」「道徳」「専科・特別支援」という4つのグループを編成し取り組んだ。各研究グループごとに研究仮説を設け、その仮説について研究授業後には検証作業を行った。教科ごとにグループを組んだメリットもあったが、「できない子ができるようになる」という授業には、まだ十分に達していない。そのため、来年度は学校全体で研究する内容の一つに絞り、学校全体で「できない子ができるようになる」授業を目指していきたい。 キャリアプランニングについては、児童が自分の将来を描き、学ぶことや働くことの意義を理解させるために、6年生の「キャリア教育推進事業」だけではなく、全学年、全教科・領域で、「働くこと」や「働いている人」について児童に関心をもたせる取組や指導が必要である。
	指標	15分モジュールを計画的に進めたり、児童の課題に対応した授業改善に努めたりしている。			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか	教職員アンケート【3.95】	A	
	指標	明確な目標・多様な評価等により一人一人を伸ばしている。			
	項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか	教職員アンケート【3.21】	B	
	指標	学ぶことや働くことの意義・役割等を理解させ、キャリア形成にかかる多様な体験活動を実施している。			
②特別支援教育の充実	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか	教職員アンケート【3.38】	B	校内特別支援コーディネーターを中心に、保護者や関係諸機関との連携をスムーズに行うことができている。また、赤穂特別支援学校とも密に連絡を取り合い、支援が必要な児童や保護者についての情報共有もできている。今年度から特別支援学校と本校特別支援学級の児童との交流会を実施することもでき、児童相互の関わりを深めることもできた。支援が必要な児童についての理解や支援の仕方については、特別支援教育の専門家である関西国際大学の中尾教授を2度招聘し研修を行った。来年度は「個々の専門性」をさらに向上させるために、日常的な教職員の交流による学びと、計画的な研修を行っていきたい。
	指標	個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、教育的支援を進めている。			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っているか	教職員アンケート【3.75】	A	
	指標	関係諸機関での教育相談、保護者との連携・協力による適切な支援を行っている。			
③人権教育の徹底	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切にする心を育てているか	教職員アンケート【3.95】	A	「いじめ」は絶対に許してはいけない。「いじめ」の定義や対処法などについては、毎年繰り返し研修しているが、児童たちを取り巻く社会環境の変化のスピードが速く、これまで起きなかったような新たな問題も出てきている。本年度も、生活指導担当を中心に、「いじめ」の現状、今日的な人権課題について研修する機会を設けた。今後もインターネットによる人権侵害等、取り扱う事例が多いため、月に1度の職員会議などを利用し、できるだけたくさんの事例から対処法を学び、実際に起きた時に即時対応することができるようにしていきたい。
	指標	自他の命や人権を大切にし、児童にはお互いを思いやる心が育っている。			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っているか	教職員アンケート【3.45】	B	
	指標	教職員の人権意識の高揚のため、今日的な人権課題を取り上げた校内研修を実施している。			
④道徳教育の充実	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか	教職員アンケート【3.34】	B	今年度は研究推進の取組の中で「道徳」研究グループが結成された。新学習指導要領実施に向け、「教材分析シート」を用いた授業の組み立てや、授業の進み方について、2学期には全職員で研修を行うことができた。職員は、道徳の授業だけでなく全教育活動の中で、道徳性の育成に努めている。児童一人一人が様々な背景を抱えているため、家庭との連携が不可欠であり、道徳での学びが日常生活の中で生きるよう指導を続けていきたい。 学習活動や学校生活、異学年活動など道徳での学びを生かす場を意識して取り入れることで、児童の自他を尊重する心に成長を感じている。
	指標	児童は自分を大切にするとともに、互いを思いやっている。			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか	教職員アンケート【3.63】	A	
	指標	指導のねらいに則して多様な指導方法を研究し、実践的な授業力の向上に努めている。			
⑤環境教育の推進	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか	教職員アンケート【3.95】	A	3年生が、加里屋川について学習する中で「加里屋川に住む昆虫を自分たちでも育てたい」と、鈴虫の飼育に取り組んだ。5年生も自然学校で、自然に触れる機会を多くもつことができた。各学年での学びと関連させながら環境教育に取り組むことで、知識的な学びと体験をもとにした環境学習を進めることができる。
	指標	自然とのふれあい、生活の中での気付きや発見をきっかけとして、環境に関心を持たせるような取組をしている。			
⑥「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	環境整備を年間を通して意図的・計画的に行っているか	教職員アンケート【3.53】	A	東校舎の大規模改修工事が実施され、老朽化が激しかったトイレの改修をはじめ、東校舎の教室環境が大幅に改善された。また、げんこつクラブによってアベリア剪定作業を行うなど、保護者と連携しながら環境整備を行うことができた。 特色ある教育活動についても、3年生の加里屋川学習をはじめ5年生の防災学習や、コーラス部・金管バンドクラブの特別クラブの活躍も目立った。 危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制の構築がなされている。今年度は例年に加えて、「アラートが発令された時を想定した訓練や「引き渡し訓練」を新たに実施した。「ミサイル発射」に対する対応など新たに対応が必要な事象もあり、今後、社会状況を踏まえながら、その時々に応じた危機対応を進める必要を感じている。
	指標	美しい学校、心やすらぐ学習環境となっている。			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか	教職員アンケート【3.45】	B	
	指標	危機対応マニュアルにより、定期的に対応訓練を行っている。			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか	教職員アンケート【3.88】	A	
	指標	特別クラブ・学校茶道・加里屋川・赤穂義士等について、充実した活動を行っている。			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	若い先生方が多いため、学校に活気が溢れているように感じた。オープンスクールや授業参観で学校を訪れると、休み時間に子ども達と一緒に遊んだり、楽しそうに会話をしている姿が見られた。学校のもつ条件を生かした学校運営が行われているように思う。その一方、学級を経営していく力や授業力といった知識と経験を要する部分では、課題があるように思われる。そこで、校内研修を通して若い先生方の底上げを図り、学校全体の力を高めていく欲しい。そして、子ども達が、学ぶことの楽しさ、友達とともに生活することの楽しさを存分に感じられるように、取組を進めて欲しい。
○	◎	発達障害についての知識や対応についての理解は年々深まっており、共感的理解を必要とする児童への対応は改善されているように感じる。来年度も、中尾先生の指導の下、さらに、児童が困っていることの背景を読み取る力と、合理的配慮に基づいた個々の対応力を磨いていただきたい。
◎	◎	今年度、重大ないじめの案件はなかったと報告を受けた。それは、「いじめは絶対に許してはいけないが、必ず起きるものだ。」という積極的認知の姿勢のもと、先生方が、未然防止・早期発見・早期対応に努めていただいたおかげである。毎学期行う児童のアンケートをはじめ、日常的に児童を細やかに見取り、少しでも困ったことがあると思われる児童にすぐ話を聞いたり、保護者と面談したりするなど、児童に寄り添う体制ができていることが、いじめを防いでいると感じる。今後も、児童一人ひとりを大切にする指導を大切にして欲しい。
○	○	今年度、道徳の研究を行うグループを中心に、教材分析の方法や授業の進め方について研究が深まっているので、それを継続して欲しい。赤穂小学校では、道徳の教科化に対して、カリキュラムの作成や教材選択、授業の進め方の研修など、計画的に準備が進められていることが分かった。新聞やニュースの報道で、道徳の教科化に対する様々な意見が出されているが、今後、授業の進め方や評価の在り方についてさらに研鑽を図り、効果的な指導を行っていただきたい。
◎	◎	6年生の加里屋川清掃、3年生の鈴虫放虫など、今年度も加里屋川を生かした取組を実施していただき感謝している。今後も地域を愛する心を育てる教育の充実を図っていただきたい。地域として協力できることは、私たちもどんどんしていきたい。
◎	◎	社会状況を踏まえた即時性のある訓練が実施されたということで、安心している。学校生活において、子どもの安全・命を守ることは一番大切にされなければならない。これからも引き続き、社会状況を踏まえ、柔軟に対応していただきたい。また、大規模改修工事が計画的に実施され、子どもたちの学習環境が大きく改善されているのありがたい。特に、長年の問題であったトイレの改修のおかげで、より子どもたちが安心して学校生活を送ることできるようになったと感じる。来年度は、南校舎も改修され、全てのトイレが子どもたちにとって清潔で使いやすいものになるということで、更なる生活環境の改善に期待したい。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった					
観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑦心の通い合う授業を基盤とした生徒指導の充実	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか	教職員アンケート【3.88】	A	職員会議や生活指導委員会、教育支援委員会などで、いじめや不登校問題について常に情報共有を図るだけでなく、早急に対応が必要な案件の場合は、職員朝会や終会でも職員全体で対応の共通理解を図ることができた。児童が困っていたら、訴えの軽重に関係なく、すぐに児童の声に常に耳を傾け、丁寧に聞き取りや事実確認を行うこともできた。来年度も、一人一人の特性や状況に応じた的確な指導を行っていきたい。
	指標	即時性・適時性を大切にした指導を行っている。			
	項目	好ましい人間関係、児童の心の居場所づくりに努めているか	教職員アンケート【3.95】	A	
	指標	いじめ、不登校問題に対して、組織的且つ迅速な対応ができてい			
⑧「兵庫の防災教育」の充実	項目	充実した防災教育が実施されているか。	教職員アンケート【3.88】	A	例年通り学期に一回、火事や地震、津波を想定した訓練を行った。さらに、今年度は「引き渡し訓練」を初めて実施した。運動会時に行うことで、保護者・地域と連携した訓練を実施することができた。
	指標	「明日に生きる」等を活用した防災教育や、地域と連携した実践的な防災訓練を実施している。			
⑨学校園所・家庭・地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか	教職員アンケート【3.66】	A	定期的な学校通信・学年通信の発行に努めた。ホームページも、不定期ではあるが学校での取組や行事の様子を更新した。家庭学習の手引きである「赤小学園のススメ」は、学習部屋に貼っていつでも見ることができるよう内容を精選した。昨年度からPTA本部と共同で取り組んでいる「赤小メディア宣言」と共に、年度初めの学級懇談会で趣旨について保護者に説明し、理解と協力を促した。さらに継続的な啓蒙を図り、学校と家庭の連携を強めていきたい。 学習の補助や、学習環境保全のお手伝いとして「赤小応援団」を発足させた。家庭科の裁縫のお手伝いや、改修工事の際の荷物運びなどの場面で、これまでに比べて学校教育への参加を増やすことができた。来年度はより様々な場面での協力を依頼し、より多くの方に学校教育活動への参画を促したい。
	指標	オープンスクール、各種会合、各種通信、HP等によって積極的に情報を発信している。			
	項目	地域人材や地域教材の活用に努めているか	教職員アンケート【3.72】	A	
	指標	自然体験活動や社会体験活動などをする際、地域の人材や教材を積極的に活用している。			
	項目	家庭や地域との連携・協力は図られているか	教職員アンケート【3.78】	A	
	指標	「赤小学園のススメ」、「赤小メディア宣言」等を、家庭や地域と連携して進めようとしている。			
⑩福祉教育・ボランティア活動の推進	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか	教職員アンケート【3.72】	A	2年生・5年生が高齢者施設訪問、3年生で手話学習、4年生で点字・アイマスク体験等、各学年で福祉教育を展開できた。学年を超えての系統的・継続的な活動が、他者を思いやる心を育てている。
	指標	関係機関との連携をとり、体験学習などの多様な学習方法で実践している。			
⑪健康教育の充実	項目	発達段階に応じた性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実に努めているか	教職員アンケート【3.16】	B	「学習指導要領」に基づき、保健学習を展開できた。特に4年生では、「体の変化」について養護教諭と、6年生では「食を通しての健康促進」に栄養教諭と授業を展開し、より専門性の高い学習に取り組むことができた。体力の向上については、11月から12月にかけて「業間かけ足運動」を全校で実施したり、運動委員会が定期的に外遊びを促すイベントを企画したりし、一定の効果をを得ることができた。来年度は、関西国際大学中尾教授の指導による「体づくり」に焦点を当てた取組を計画している。
	指標	喫煙などによる健康への影響を認識させ、誘惑に負けない行動ができるよう指導している。			
	項目	運動習慣の定着を図るための指導の工夫・改善に努めているか。	教職員アンケート【3.34】	B	
	指標	体育の時間や業間・昼休み等を活用して外遊びをする等、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせている。			
⑫教職員の専門性と実践的指導力の向上	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができているか	教職員アンケート【3.95】	A	管理職の指導のもと、教育公務員としての倫理観を高める講話や共通理解の場を重ねた。校内研修では、自分が勉強したい教科を研究できるよう研究体制を改めたことで、より主体的に研修に取り組むことができた。中堅教諭研修受講者がミドルリーダーとして力量を発揮するなど、日常的な学びの集団づくりを進めることもできた。しかし、多様な仕事に従事することが多いため、専門性を高める学びを継続することが難しいという現状もある。今後、さらに業務の精選・効率化を図り、教職員の資質向上に努めていくことが必要である。
	指標	服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。			
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われているか	教職員アンケート【3.74】	A	
	指標	様々な研修機会を活用し、計画性を持って自主的・主体的に研修に取り組んでいる。			

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント

※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

※達成状況で、評定点数が「3. 5以上」をA,「2. 8以上3. 5未満」をB,「2. 8未満」をCとしている。

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	今年度、赤穂小学校では不登校の児童が一人もいなかったと聞く。それは、様々な機会を通して職員全体で情報共有を図り、学校全体で該当児童に関わっていった結果だと思う。また、学校に来にくい児童に対する担任の細やかな対応も評価したい。周辺自立や生活習慣の確立など子どもたちが学校に行きやすい環境を、家庭で作っていくことも大切であり、PTAと連携して取組を進めていって欲しいと思う。
◎	◎	運動会に実施した「引き渡し訓練」では、保護者や地域を巻き込み、災害時の対応についての意識を高めることができた。来年度も継続して取り組んでいただきたい。
○	○	保護者アンケートで、「家庭でテレビやゲームのルールを決めている」という項目が昨年度よりも下がっていると聞き、メディアのルールを家庭に浸透させていくことの難しさを感じる。現に、街へ出て行けば、親が子どもそっちのけでスマホでゲームをしている場面をよく見かける。しかし、子どもたちをメディアがもつ危険性から守るためにも、PTAや児童会などと協力をして、テレビやゲームの時間が自主的に守れるような取組ができるよう願っている。 また、利用時間の制限だけでなく、有効かつ適切な使用について指導を行っていただきたい。
◎	◎	全学年で福祉教育が実施されており、年を重ねるごとに児童の福祉に対する理解が深まっていくことは素晴らしいと感じている。この良き取組を今後継続して欲しい。 民生委員として、高齢者への手紙のプレゼントは毎年喜ばれており、大変ありがたく思っている。引き続き取組を継続していただくようお願いしたい。
◎	◎	今年度はインフルエンザが大流行し、4クラスで学級閉鎖となったと聞く。保健指導の充実を図り、日常的な手洗いうがいの徹底・マスクの着用などで予防に努めて欲しい。また、体育の授業や業間運動など、年間を通して子どもたちの体力が高まるような取組を今後、さらに進めて欲しい。また、社会的に喫煙・飲酒・薬物の低年齢化が進んでいるので、指導の徹底を図り、子どもたちの健全を促進して欲しい。
○	○	毎月行われる職員会議で、管理職による講話が行われていることは望ましい。一部の教員だとは思うが、新聞・ニュースで教員の倫理を欠く行為や、不適切な指導が取りざたされている。教育公務員としての意識向上を図るため、今後も継続して行って欲しい。 管理職の指示のもと、研究推進を中心に教職員の資質向上に係る研修が計画的に行われていることは、大変良いことだと感じる。学校の持つ課題を見い出し、今後も教職員の資質向上に努め、学校の組織力を高めるべきだ。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

若い職員が多いのにも関わらず、職員の自己評価が高く、赤穂小学校が抱える問題が見えてこない。遅くまで職員室に電気がついていることが多く見られることから、本当は職員の皆さんはたくさんの仕事量を抱えており、疲労感を募らせているのではないかと。職員の皆さんがしっかりと休息をとったり教材研究をしたりする時間がとれるよう、職員間の協力関係をこれまで以上に高め、「チーム赤穂小」として学校運営にあたっていただきたい。